

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173700236		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	行田ケアセンターそよ風		
所在地	埼玉県行田市天満8-29		
自己評価作成日	令和3年6月17日	評価結果市町村受理日	令和5年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和3年6月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節に合った外出、センター内でのレクリエーションを行い、楽しく安心して生活が送れるように努め、作品を作って頂いた時は家族様にも見て頂けるように月に1度便りに写真を載せて送っている。一人一人の生活を大事にして対応をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者一人ひとりの思いとその生活リズムを大切に、笑顔で楽しく過ごして頂くよう、チームケアに取り組まれている。また、納涼祭を始め、多くの催事が企画され、利用者が明るく楽しい時間を過ごされている。
- ・運営推進会議は、コロナ禍の中、会議開催に替え、書面にて報告をし、事業所の取り組みについての評価や意見を頂き、事業所運営やサービス向上に活かすと共に地域に開かれた事業所として質の確保を図られている。
- ・目標達成計画については、前年度は厚生省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、災害対策として、定期訓練では火災発生を想定し、初期消火など基本訓練に取り組みされるほか、職員緊急連絡の試行や水害対策の検討など取り組まれていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が地域との関わりを持つ事を重視することを理念とし、職員および管理者は理念の共有が出来るような環境作りを行い、実践している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念のもと、利用者との信頼関係とその思いを大切に、笑顔で楽しく過ごして頂くよう、チームケアに取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩やボランティア、近所を通し、会話をするようにし、又、市内の催し物に参加するようにし交流をはかっている。	現在はコロナ禍の中、自粛をされているが、散歩や買物に出かけたり、事業所催事でも地域の方やボランティアとの交流を楽しまれるなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議、年に数回の家族会を開催し、日々の支援記録、実践状況を公開している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域包括をはじめ、民生委員町内会長、市役所に参加して頂き、報告や意見交換をしている。	コロナ禍の中、メンバーが揃っての会議開催に替え、書面にて報告をし、事業所の取り組みについての評価や意見をいただき、事業所運営やサービスの向上に活かすと共に地域に開かれた事業所として質の確保を図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険上で不明な点があると市町村担当者へ連絡をして相談にのってもらい、報告をしている。	行政担当者とは報告・連絡・相談時や困難事例の受け入れ時にコミュニケーションを図られている。また、マスク・ゴム手袋・アルコール消毒液などを頂くなど、良好な連携関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会をはじめ、普段の介助時でも迷いがでると身体拘束にならないか声に出して確認をしている。	法人研修や身体拘束廃止委員会が定期的に行われ、全職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、言葉での拘束を含め、行動の抑制をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議での勉強会、職員同士でお客様の対応でおかしいと思ったら伝えるような環境作り、意識をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を使用する方が現状居ない為、言葉程度の認識でしかない。居ると聞いた時は情報共有を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはていねいに説明をし、できるだけ、センター長立ち合いで行い、不明、不確かな点はフォローしてもらい、家族に不安を与えないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年度の家族会、定期的な面会時に疑問、質問に誠意を持って答え、サービスに繋げている。	「甘いものやお好み焼きが食べたい」など、利用者の要望に応えられている。家族とは連絡時に意見・要望を聴き取られ、職員間で話し合い、事業所運営やサービスに活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員へ声をかけ、意見を聞くようにし、ケアプラン変更、作成時には意見を聞き、取り入れるようにしている。	定例会議などで意見・提案を聴きとられるほか、発言し易い職場環境がつけられ、食事形態の変更や個別ケア対策など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務中の様子を見るようにし、困っている、悩み事がないか等を聞き、常に職員が働きやすいか、向上心を持てるかなど施設長を含め話しをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	仕事を振り分けし、出来ない、苦手を少しでも克服できるよう努め、一人一人のスキルアップが出来るように研修に参加できる環境、促しをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議にて同業者と交流し、情報共有を行い、意見交換をし、サービスの質の向上を目指す。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声掛け、様子観察をし、変化が見られた時職員同士で声をかけあい、家族に連絡をし、原因を探り方法を試してみて、また家族と連絡を取り相談、主治医も相談する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に連絡をした時に「何か心配、困り事、気になっているか」等を聞く。何かしてほしい要望も伺うようにし、家族によりそっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入居を考え、迷われている時は、声をかけ、DS,SS等の利用の利点をすすめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	天気の話、食事の話をはじめ、日常会話をし、一緒に過ごすことで顔見知り、信頼されるように意識をし、対応をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様に関わることをどんな小さなことも情報共有をすることを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活暦を活かし、友人、知人との交流関係が継続できるよう、連絡がとれるような手伝いを行い、地域との関係も継続出来る為に努める。	最近では自粛されているが、近くの神社に初詣に出かけられたり、季節毎には花の名所や、地域の催事に出かけたり、友人と外食を楽しまれるなど、これまでの関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が出来る、気の合う人を見つけ、席を近くにしたり、時々席替えをし、誰とでも話せる環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去となった場合でも近くまでお越しの際や思い出話しをしたくなったらいつでも連絡を下さいと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話することで何を望んでいるか何に困っているかを見つけ出す努力をしている。	利用者一人ひとりとのコミュニケーションと信頼関係を大切に、声かけを行い、思いや意向を把握されている。困難な利用者についても、表情や仕草から汲み取り返り、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様に生活の様子を伺い、又、担当ケアマネやサービス担当側と連絡を細かく取って情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員都合ではなく、利用者様一人一人が何がしたいか、何をしたいかを見極めよう努めている。得意な事は伸ばし、継続できるよう務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画期限が近付いた時には職員に声をかけ、問題点又計画書に記して欲しいものはないか確認検討をしている。	利用者・家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師からの指示を含め、全職員の意見やアイデアを活かし、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	口頭申し送り・ノートでの申し送りをはじめ、日々の記録に生活の様子を計画に添った支援、援助の実施、状況変化を記し、計画書の見直し、評価に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化見られたらまず職員で共有し、その都度、対応の見直しや、その時に良いと思う方法で対応する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で安心して暮らしていけるよう自治会長、民生委員、市役所へ情報を公開、意見交換する機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受信時こちらからの生活様子又困り事を手紙にし渡し、返事を頂いて支持をおおき対応し、対応後の様子も伝えるようにしている。	入居時に利用者・家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診支援は家族対応を基本とするも、職員同行も適宜行なわれ、必要な情報提供を行ない、適切な診療が受けられるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	熱発やBP測定を行う事で体調の変化、表情観察、食事、排泄量の確認、異変時は施設NSの協力をあおぎ適切な医療が受けられるよう支援をする。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院、相談員と連携を取り、戻れる場所があることを病院側家族様に伝え安心して頂く。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行ってないが、家族様が住み慣れた所で望まれた場合は最後まで看させて頂いている。	利用者の症状に合わせ、重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後も意思確認を進めながら、医師・看護師との連携のもと、支援体制を整え、重度化や看取り支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、初期対応は冷静に行うよう日頃から意識するような声掛けをしている。焦らないことと伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会社、GHで避難訓練を行い、自分がどう動くのかどうすればよいか身につけるよう努力をしている。	定期訓練では1階厨房からの火災発生を想定し、初期消火・通報・避難誘導訓練に取り組まれている。また、水害対策の検討や備蓄品の点検・整備など、体制整備に努められている。	災害対策には十分取り組まれています。今期、新任職員等の採用があったことから、災害時の組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧語ばかりで会話をするだけでなく、その方に合う対応が出来るような言葉掛けを心掛け、家族様にも伝えている。	トイレ誘導時には耳元で小さく声がけをされたり、着替えの際にも他の利用者に見られぬよう配慮をされるなど、利用者の人格を尊重した対応、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮など、きめ細かな対応がとられている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	緊張をする雰囲気ではなくリラックスして生活が送れるような対応、環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日1日が大事だということを職員に伝えその方が穏やかに安心して生活が送れるよう本人様に声掛け、家族へ確認して思いにそっていけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服、昔から着ている服が着用できるように風呂の着替えと一緒にセットしたり、家族様に伺っていつも違う服が着れるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、下膳が可能な方には手伝って頂き、準備、片付けにも参加して手伝って頂く。	利用者個々の力に合わせ、食事の準備や後片付けなどを職員と共に行っている。催事にはお節料理や屋台メニューが提供されるほか、毎食、彩り豊かな美味しい食事を楽しまれるなど、食の楽しみを大切に支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嫌いな物、苦手な物は最初から残してよいではなく、量の調整をし、提供、促しをしている。好む物が提供できるよう家族とも連携を計る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声をかけ、一部手伝い、支援をしている。難しい方には一つ一つ説明をし促す。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立した方でも時々声をかけ、排泄排便状況を確認をしている。すぐにリハビリに変えるのではなく、声掛けの時間を教えたり、声掛けの言葉を選びトイレで排泄して頂く。	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行ないトイレでの排泄など、自立に向けた支援をされている。出来るだけオムツ類は使用せず、布パンツを基本とし、定時誘導で失禁防止を図られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診医、受診医に何かある時は連絡、相談を行い、下剤の服薬、服薬滴数等の支持をおおぎ、実施した結果を報告する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気の合う人との入浴、入浴が苦にならないよう一度の入浴人数をたくさんにせず、1対1、1対2くらいで楽しめるよう努める。	利用者の状態に合わせたシャワー浴を含め、希望に沿った支援をされている。入浴拒否の方には無理強いすることなく、声掛けや時間を替えるなど、工夫をし支援をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室、寝具の季節に合ったもので対応し、エアコン温度設定にも細かく気を付け、その方の好みの居室環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前に職員1人が読みあげ、1人が目で確認し、本人様にも名前を確認し、間違いがないように努める。 下剤については排便状況に応じ対応。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自身が出来ることは行って頂き、最小限の支援で様子を見て支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は近くの催し物をはじめ思い出の場所に行けるよう支援している。	最近では自粛されているが、事業所前の公園での散歩や外気浴を楽しまれているほか、地域の祭りや季節の花見、ドライブなど、利用者の希望を大切に支援に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状お金を持っている方は1名、受診時の気分転換を含め、買い物されることもあるので同行、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様から電話をかける支援はなく、本人様に家族様からかかってきた電話にはでて話される支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用場所、居室に不快がないよう常に清潔を保っている。臭いも残らないよう消毒を行う事もある。	玄関ホールには季節に合わせ、風に泳ぐ鯉のぼりや朝顔の創作貼り絵が飾られ、季節感ある装飾となっている。また、リビングにはソファが置かれ、テレビを観たり、おしゃべりを楽しめるなど、利用者が落ち着いて、ゆっくり過ごせる設えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を時々替え、雰囲気を変えている。どこでも安心できるような環境作り家族様へも伝える。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持ち込みによって本人様が安心できるような環境作り、家族様へも伝える。	馴染みの寝具やタンス、テレビやラジオが持ち込まれ、利用者が気分良くゆっくり過ごされるよう工夫をされている。また、定期的なリネン交換と毎日掃除の時間が設けられ、共用スペースを含め清潔維持と衛生管理に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行動範囲の認識をして、安全、安心に生活、行動が出来るように支援している。		

(別紙4(2))

事業所名: 行田ケアセンターそよ風

目標達成計画

作成日: 令和 3年 7月 30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	新任職員への災害時の取り組みをきちんと伝えられていない。	新任職員が入った時点で今いる職員も含め、災害時の自分の役割等、全体を通して職員同士で協力をする。	現在の職員の中で新しい職員をはじめ、GHの災害時について避難訓練、避難方法を知ってもらい、実践していく。	3~6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。